

建設工業新聞

8月29日
水曜日

発行所 北陸工業新聞社

本社 〒921-8111
金沢市若草町2番42号
電話(076)241-8361代
支局 福井・富山・新潟

金沢で初の技術講習会

ミラクルソル協、80人参加

ガラス廃材を再資源化した新素材「ミラクルソル」の多様な活用に取り組みミラクルソル協会(原裕理事長)はこのほど、金沢市内で第22回ミ

ラクルソル工法技術講習会を開いた。官公庁や地元建設コンサルタント、建設会社などから約80人が参加した。同協会が金沢市で技術



80人が参加した工法技術講習会=金沢市内

講習会を開くのは初めて。冒頭、あいさつに立った原理事長は「1995年に当時の通産省から技術開発費をいただき、ガラス廃材を再資源化した吸水性のミラクルソルをつくった」と開発の経緯を説明した上で、「環境負荷低減を目的とした、約20年の実績のある工法だ」と話した。

特別講演では、先端建設技術センターの理事長で元国土交通事務次官の佐藤直良氏が「社会資本の未来に向けて」と題して講演。最新の測地技術やBIM・CIM、情報化施工など、今後主流になる技術について説明する一方、現場の踏査や調査などでの人の力や熟練

工の育成が重要になるとを強調した。

また、原理事長が「多目的環境材料ミラクルソルの活用技術―環境土木―環境緑化工法―」をテーマに講演。ミラクルソルによつて路面温度を低下させるFWG透保水性舗装工法や、FWG軽量盛土工法による災害復旧をはじめ、屋上緑化、斜面緑化など多岐にわたる施工事例を紹介した。

さらに協会顧問の荒木宏之・前佐賀大学低平地沿岸海域研究センター長が、「環境材料ミラクルソルの魅力」と題して、ミラクルソルと、これを発展させたゼオライト化ミラクルソルによる水質浄化と資源回収について原理と実例を説明した。さらにハイブリット型へ進化した吸着材の仕組みと広範囲な活用の可能性を提示した。